

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期毎に調査を行い、D. Iを中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、平成28年10月～12月期の業況実績と、平成29年1月～3月期の見通しについて、管内771先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てれば幸いです。

※ D. I (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 一般業種の業況	
(1) 製造業	2
(2) 卸売業	3
(3) 小売業	4
(4) サービス業	5
(5) 建設業	6
(6) 不動産業	7
3. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	8
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	9
(3) 能登地区の漆器業	10
(4) 能登地区の木材業	11
(5) 能登地区の建具業	12
(6) 能登地区の織布業	13
(7) 能登地区の繊維・雑品業	14
(8) 能登地区の観光業	15
4. 経済指標	16～17
5. 特別調査	
2017年（平成29年）の経営見通し	18

（注）平成28年10～12月を今期、平成28年7～9月を前期、平成29年1～3月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製 造 業	229	204	89.1	29.7
卸 売 業	36	30	83.3	4.4
小 売 業	230	207	90.0	30.2
サービス業	131	118	90.1	17.2
建 設 業	111	101	91.0	14.7
不 動 産 業	34	26	76.5	3.8
合 計	771	686	89.0	100.0

◆◆◆ 概 況 ◆◆◆

《 2016・10～12 月 》

石川県内の景気は一部に鈍さが見られるものの回復傾向を続けており、その要因として個人消費においては、乗用車販売・新設住宅着工戸数が依然底堅く推移し、主要温泉地の宿泊数は依然として高水準となっている。公共投資は持ち直しているものの回復が鈍く、設備投資についても慎重ではあるが着実に増加している。製造業では改善傾向にあり今期も横這いで推移してきている。雇用所得環境は着実な改善を背景として持ち直しているが、景気の先行きについては、慎重な見方が多い。

当金庫の今期（平成 28 年 10 月～12 月）営業地区業況 D. I は、全体的には一部業種を除いて悪化を示しており、前期△12.1 に対して△16.0 と前期比 3.9 ポイント悪化を示している。

内容をみると、D. I が改善したと回答した業種のなかでは、年末の書き入れ時期に向かい、正月用品の需要から漆器業で売上及び収益が増加となった。建具業においても年末を迎えての住宅の完成の増加により、殆どの事業所で多忙であった。他に、自動車部品の半導体及び電化製品部品の生産の増加から改善を示し、卸売業でも明るさが見られた。

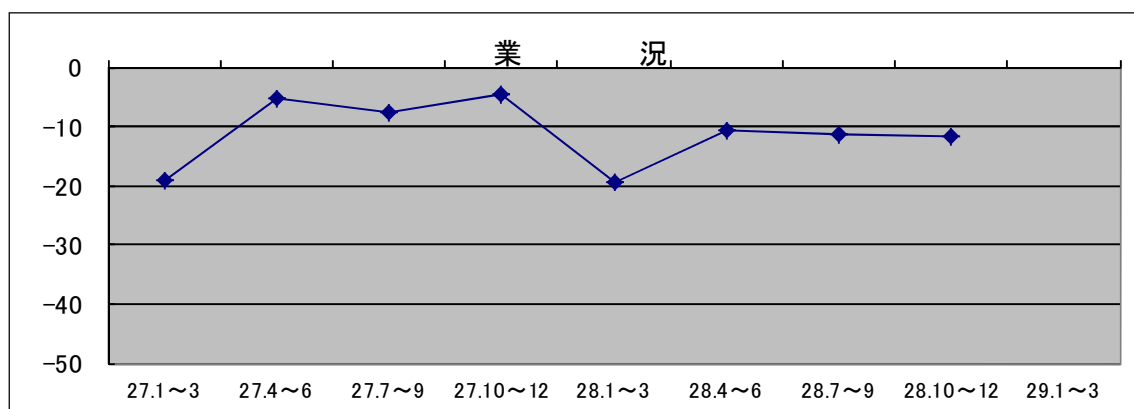
D. I が悪化したと回答したのは地場産業である繊維・雑品業、観光のオフシーズンに入った観光業でそれに伴い飲食業でも売上減少や収益悪化を示す企業が多かった。

来期（平成 29 年 1 月～3 月）業況 D. I は今期の△16.0 から△25.2 と 9.2 ポイント低下を予想する。製造業では総じて悪化を予想している。織布業では安定した受注を見込む企業があるものの、為替相場の変動によって先行きが不透明で不安視する企業もある。漆器業においては年末からの一服感と入込み人口の減少から、繊維・雑品業においては、販売先の在庫調整等により受注の大幅な減少を予想している。電子部品・半導体製造業や建具業でも悪化を見通している。

観光業ではシーズンオフによる入込客の減少から悪化を予想。卸売業は青果物等で好調を予想するも、全体では悪化を予想する先が多い。小売業では自動車販売業で改善を予想しているが、衣料品や飲食業において引き続き悪化を予想した企業が多かった。サービス業では全体として悪化を予想。建設業では土木工事と住宅建設の減少から悪化するとし、不動産業でも引き続き厳しいと予想する企業が多く、改善を見込む企業が少なかった。

当金庫と能登町は、今年 7 月から国の膨大な統計情報「ビッグデータ」を利用した、地域経済分析システム（RESAS）を用いた地方創生に取り組んでいる。その一環として、12 月に、能登高生、町のインターシップ（就業体験）に参加している金大と金工大の学生、地元の若手経営者らでつくる 3 チームが振興策を提案した。会員制交流サイト（SNS）を活用した情報発信や、地域課題の解決を目指して交流する場「能登高カフェ」の設置などの施策を立案した。これを機会に地域金融機関として地方創生に協力をしていきたい。

製造業



【概 況】

今期（H28. 10～12月）業況D. Iは製造業全体では△11.8（前期△11.2）と僅かではあるが悪化を示した。業種別では、縫製業、半導体製造業、漆器業において改善を示し、繊維・雑品業において悪化を示した。

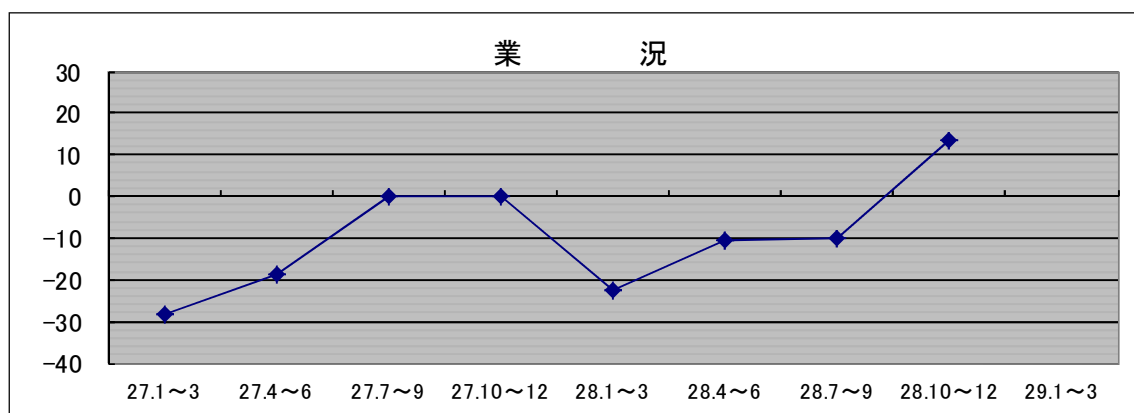
来期（H29. 1～3月）については、今期好調であった、縫製業、半導体製造業、漆器業等で悪化するとし、今期悪化した繊維・雑品業においても引き続き悪化を予想していることから、製造業の業況D. Iは△20.1と8.3ポイントの悪化を予想している。

《業績判断D. Iの推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△19.0	△5.3	△7.7	△4.4	△19.4	△10.8	△11.2	△11.8	△20.1
売 上	△21.0	△3.3	5.3	11.3	△22.3	△2.5	△7.1	△2.9	△15.2
収 益	△23.3	△3.8	△2.9	4.4	△18.4	△5.9	△10.7	△4.9	△14.2
資金繰り	△12.4	△22.0	△17.9	△7.8	△18.9	△10.8	△7.6	△9.8	△7.8
人 手	△8.6	△12.0	△14.5	△15.2	△11.2	△11.3	△7.6	△10.3	△9.3
設 備	△10.5	△10.5	△11.1	△8.3	△7.8	△7.8	△9.1	△6.9	△50.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.0 %	提携先を見つける	27.4 %
輸入製品との競争の激化	11.2 %	販路を広げる	18.6 %
人件費の増加	8.3 %	経費を節減する	17.3 %

卸売業



【概 況】

鶏卵業については昨年には及ばないものの好調を維持している。他に海産物、青果物、食肉等が好調であった。

従って、卸売業全体の今期（H28. 10～12月）業況D. Iは13.3（前期△10.0）と改善を示した。

来期（H29. 1～3月）の見通しは、青果物や食肉業で好調を予想するも、鶏卵業、原木業、園芸用品業等で悪化を予想する先が多く、卸売業全体の業況D. Iは△10.0の悪化を予想している。

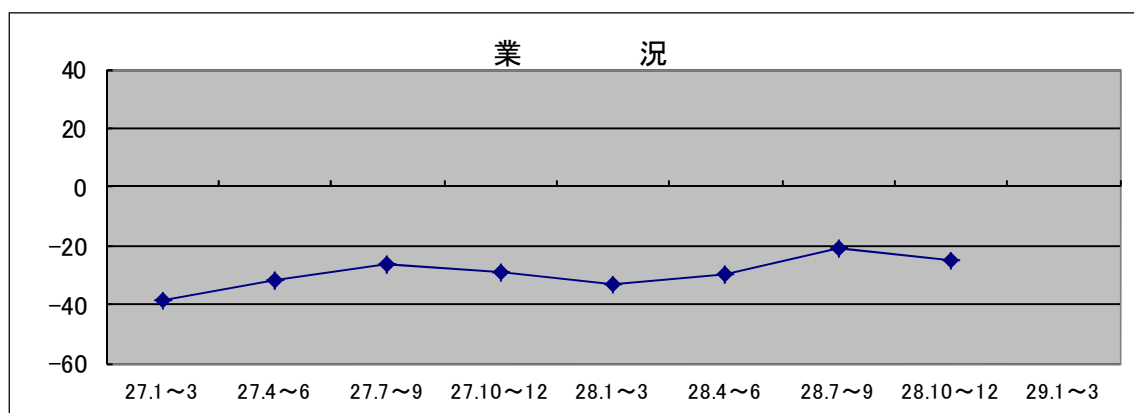
当面の重点施策で、「提携先を見つける」「販路を広げる」とした先が、全体の過半数を占めた。

《業績判断D. Iの推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△28.1	△18.8	0.0	0.0	△22.6	△10.3	△10.0	13.3	△10.0
売 上	△46.9	△12.5	△3.2	6.2	△25.8	△3.4	△23.3	△6.7	△26.7
収 益	△43.8	△12.5	△9.7	9.4	△32.3	△6.9	△23.3	△3.3	△26.7
資金繰り	△18.8	△25.0	△6.5	△6.2	△6.5	△10.3	△10.0	△3.3	△6.7
仕入価格	15.6	21.9	16.1	34.4	9.7	17.2	10.0	△3.3	3.3
在 庫	△6.2	△15.6	0.0	9.4	3.2	3.4	3.3	0.0	△6.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	21.4 %	提携先を見つける	34.2 %
売上の停滞・減少	15.7 %	販路を広げる	22.8 %
合理化の不足	8.6 %	経費を節減する	20.3 %

小売業



【概 況】

小売業では、タイヤ販売業で改善がみられた。反面、衣料品販売業、飲食業や油類販売などは悪化したとの先が多かった。結果として小売業全体では今期（H 2 8 . 1 0 ~ 1 2 月）業況 D . I が $\Delta 25.2$ （前期 $\Delta 20.6$ ）と 4.6 ポイント悪化を示した。

来期（H 2 9 . 1 ~ 3 月）は、自動車販売業で改善を予想している。一方、家電販売業で悪化を予想し、衣料品や飲食業においても引き続き悪化を予想した企業が多かった。

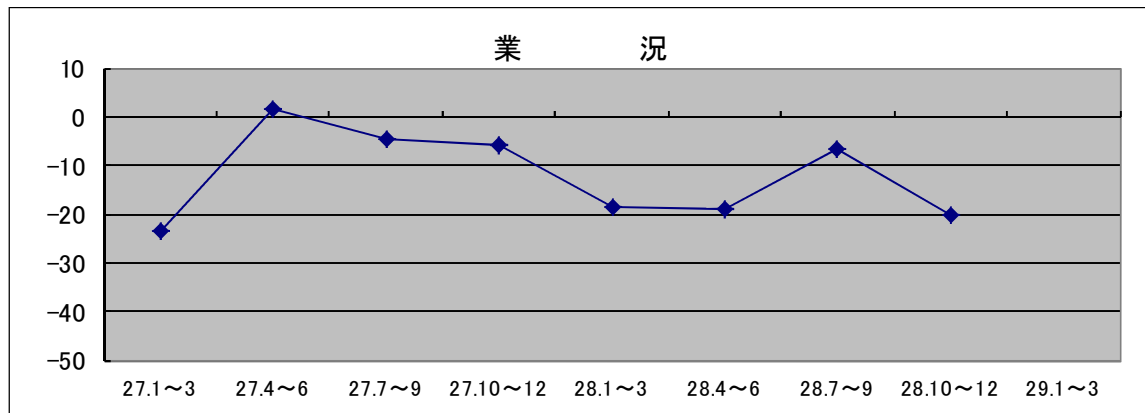
従って、来期業況 D . I については見通しを $\Delta 34.5$ と今期より 9.3 ポイント悪化の予想となった。

《業績判断 D . I の推移》

	平成 27 年				平成 28 年				見通し
	1~3 月	4~6 月	7~9 月	10~12 月	1~3 月	4~6 月	7~9 月	10~12 月	1~3 月
業 況	$\Delta 38.3$	$\Delta 31.9$	$\Delta 26.4$	$\Delta 29.3$	$\Delta 33.3$	$\Delta 30.0$	$\Delta 20.6$	$\Delta 25.2$	$\Delta 34.5$
売 上	$\Delta 42.6$	$\Delta 20.1$	$\Delta 10.4$	$\Delta 17.6$	$\Delta 22.7$	$\Delta 21.0$	$\Delta 10.3$	$\Delta 21.8$	$\Delta 30.6$
収 益	$\Delta 42.8$	$\Delta 24.5$	$\Delta 15.4$	$\Delta 17.1$	$\Delta 24.2$	$\Delta 24.3$	$\Delta 13.2$	$\Delta 24.8$	$\Delta 27.7$
資金繰り	$\Delta 27.8$	$\Delta 21.1$	$\Delta 20.9$	$\Delta 20.0$	$\Delta 24.6$	$\Delta 20.5$	$\Delta 16.2$	$\Delta 27.7$	$\Delta 23.8$
販売価格	$\Delta 5.7$	12.3	$\Delta 7.0$	$\Delta 6.8$	$\Delta 5.8$	1.0	$\Delta 1.5$	1.0	$\Delta 1.0$
在 庫	1.0	$\Delta 0.5$	$\Delta 1.0$	2.4	1.9	4.3	3.9	0.0	$\Delta 4.4$

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.3 %	仕入先を開拓・選別する	29.1 %
地価の高騰	15.8 %	経費を節減する	20.7 %
商圈人口の減少	13.5 %	品揃えを改善する	11.7 %

サービス業



【概 況】

船舶保管業でシーズンオフに入ったことにより悪化を示し、宿泊業や観光業でも入り込み客が減少傾向にあり、理・美容業やクリーニング業等も低調であった。結果、サービス業全体の今期（H28.10～12月）業況D.Iは△20.3（前期△6.8）と前期に比し13.5ポイント悪化を示した。

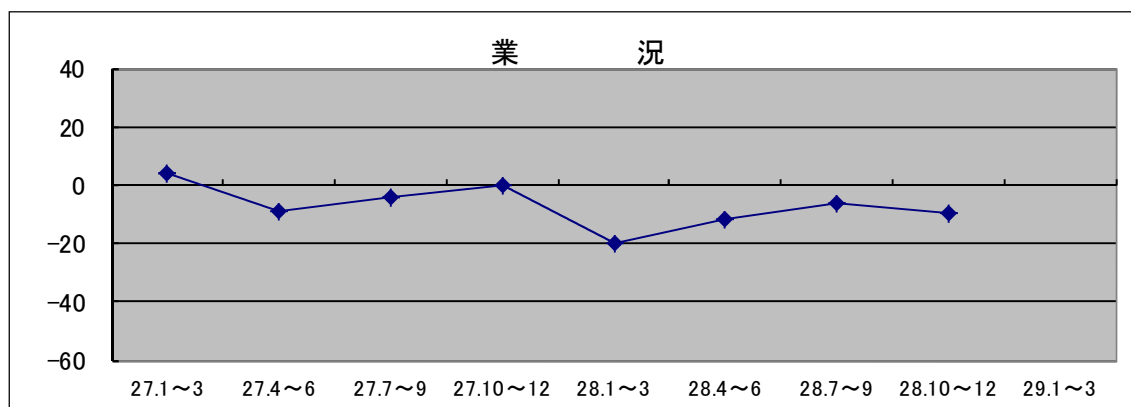
来期は冬季間であることから、さらに入り込み客の減少が予想され、温泉旅館等宿泊業で悪化を予想している。又、理・美容業についても引き続き悪化を予想している。結果、来期（H29.1～3月）の見通しは、△23.7と今期より3.4ポイントの悪化を予想している。

《業績判断D.Iの推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△23.3	1.7	△4.4	△6.0	△18.6	△18.8	△6.8	△20.3	△23.7
売 上	△27.5	5.1	0.0	△12.8	△19.5	△10.7	0.0	△15.3	△17.8
収 益	△26.7	5.1	0.9	△12.0	△22.9	△13.4	△8.5	△19.5	△17.8
資金繰り	△15.8	△5.9	△4.4	△19.7	△18.6	△17.0	△16.2	△15.3	△10.2
料金価格	2.5	6.8	4.4	1.7	△2.5	△0.9	△3.4	△1.7	△1.7
設 備	△8.3	△12.7	△5.3	△6.0	△6.8	△8.0	△8.5	△7.6	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	18.8 %	提携先を見つける	27.8 %
売上の停滞・減少	16.3 %	経費を節減する	17.6 %
同業者間の競争の激化	11.5 %	販路を広げる	14.7 %

建設業



【概 況】

住宅建設が底堅く推移しており、関連である瓦工事・電気工事業や配管工事業も順調に推移しているが、土木工事業や板金工事業の一部において悪化したとする企業も見られた。

結果、今期（H28.10～12月）業況D.Iは△9.9（前期△5.9）と4.0ポイント悪化を示した。

来期（H29.1～3月）においては、土木工事の減少と住宅建設でも若干の減少を予想しており、それに伴い関連業種である瓦工事や設備工事等において悪化を予想している。

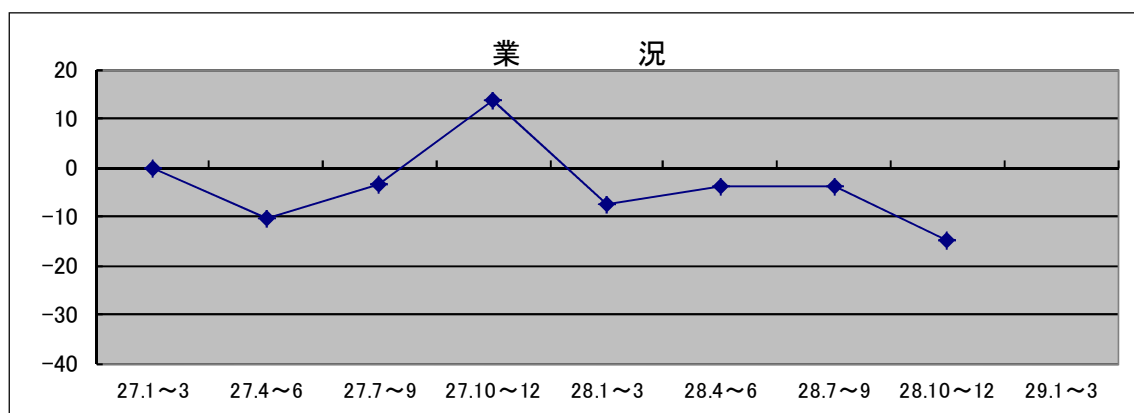
結果、業況D.Iは△27.7と今期（H28.10～12）より17.8ポイントの悪化を予想している。

《業績判断D.Iの推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	3.9	△8.9	△4.0	0.0	△19.8	△11.6	△5.9	△9.9	△27.7
売 上	△5.8	△12.9	△7.0	3.9	△18.8	△3.2	2.0	△5.0	△25.7
収 益	△8.7	△9.9	△15.0	0.0	△20.8	△6.3	1.0	△9.9	△24.8
資金繰り	△9.7	△8.9	△9.0	△9.8	△15.8	△7.4	△5.9	△10.9	△12.9
請負価格	△12.6	△6.9	△5.0	△9.8	△14.9	△6.3	△2.9	△16.8	△11.9
人 手	△19.4	△4.0	△13.0	△12.7	△3.0	△5.3	△8.8	△10.9	△10.9

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	23.7 %	提携先を見つける	31.8 %
売上の停滞・減少	14.5 %	経費を節減する	19.3 %
人件費の増加	13.7 %	販路を広げる	15.3 %

不動産業



【概 況】

経営上の問題点として前回調査に引き続き、「同業者間の競争の激化」を挙げた企業が多く、業況D. Iについて悪化とした先が多かった。また事業先によっては今期・来期ともに厳しい見方をする企業もあり、結果として今期（H28. 10～12月）業況D. Iは△14. 8（前期△4. 0）と悪化を示した。

来期（H29. 1～3月）も引き続き厳しい予想する企業が多い。改善を見込む企業が少なく業況D. Iは△14. 8と横ばいを予想している。

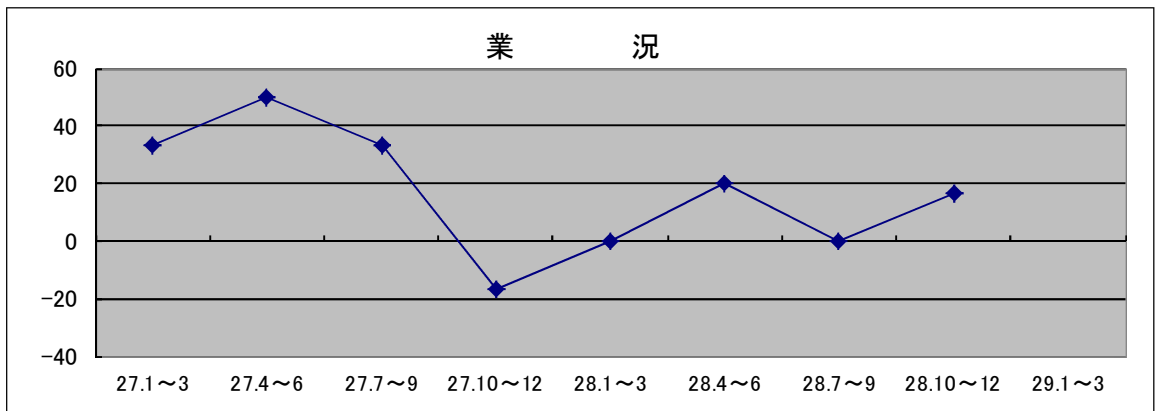
重点施策では「経費を節減する」と、「提携先を見つける」が多く、「販路を広げる」が次に続いた。

《業績判断D. Iの推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	0.0	△10.3	△3.6	13.8	△7.4	△3.8	△4.0	△14.8	△14.8
売 上	9.1	△3.4	△3.6	0.0	0.0	3.8	0.0	7.4	0.0
収 益	12.1	△13.8	△10.7	△3.4	△3.7	0.0	△8.0	7.4	0.0
資金繰り	△6.1	△17.2	0.0	△3.4	△18.5	△3.8	△8.0	△11.1	△11.1
販売価格	6.1	0.0	0.0	3.4	0.0	11.5	16.0	7.4	3.7
在 庫	△6.1	△6.9	△10.7	0.0	△3.7	7.7	12.0	3.7	3.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	31.7 %	経費を節減する	20.0 %
売上の停滞・減少	22.0 %	提携先を見つける	20.0 %
大手企業との競争の激化	14.0 %	販路を広げる	13.8 %

能登地区の縫製業



【概 況】

受注は安定している。納入先が減少したが、それに伴い人員整理を行った。現在、従業員数に見合った仕事量の受注は確保している。従って今期は十分な受注があったことから、今期（H28. 10～12月）業況 D. I は 16.7（前期 0.0）と改善を示した。

来期（H29. 1～3月）については、売上の減少を予想しており、D. I を△16.7としている。

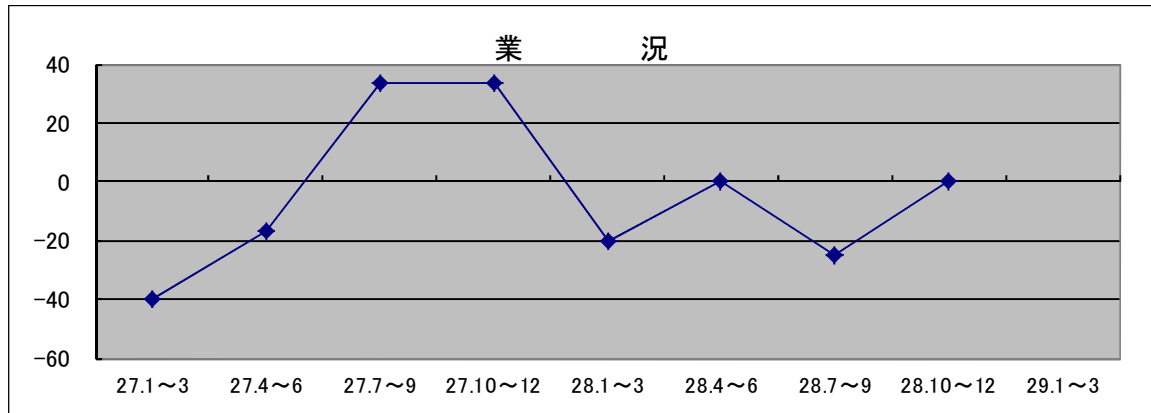
経営上の問題点として、「売上の停滞・減少」「大手企業との競争の激化」、当面の重点施策に「提携先を見つける」を上位に挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	33.3	50.0	33.3	△16.7	0.0	20.0	0.0	16.7	△16.7
売 上	16.7	50.0	0.0	△33.3	16.7	0.0	△14.3	16.7	△16.7
収 益	16.7	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	△14.3	16.7	△16.7
資金繰り	16.7	0.0	△16.7	△16.7	△16.7	△40.0	△14.3	0.0	0.0
人 手	△16.7	△33.3	△33.3	△33.3	△16.7	△20.0	△42.9	△33.3	△16.7
設 備	16.7	△16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.6 %	提携先を見つける	31.6%
大手企業との競争の激化	11.8 %	経費を節減する	26.3 %
輸入製品との競争の激化	11.8 %	人材を確保する	15.8 %

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

自動車部品の半導体及び電化製品部品の生産の増加から、業界全体の今期（H 2 8． 1 0～ 1 2月）D． Iについて0． 0（前期△ 2 5． 0）と改善を示した。

来期（H 2 9． 1～ 3月）については、円高基調が引き続き予想される事や世界経済の減速による影響と不透明感から、全体の業況は今期より悪化するとしてD． Iを△ 1 6． 7と予想している。

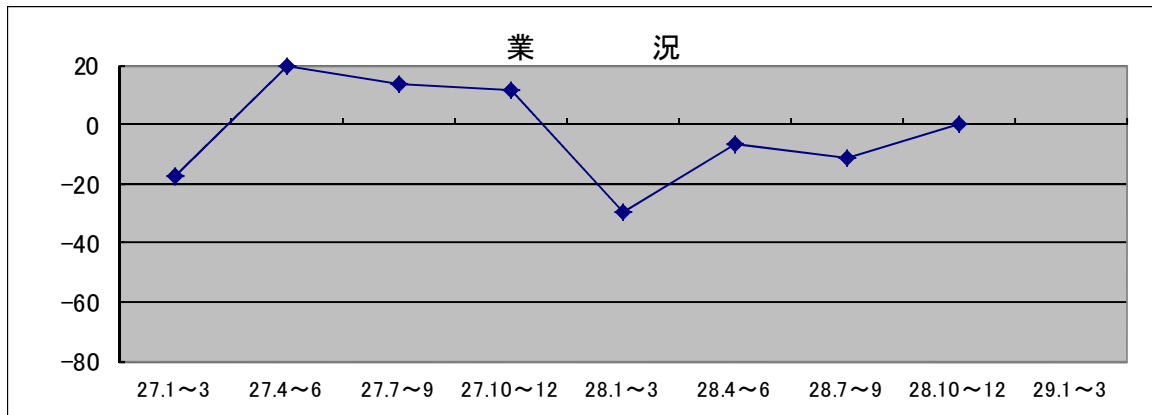
経営上の問題点としては「売上の停滞・減少」「販売納入先からの値下げ要請」等を挙げ、当面の重点施策には「提携先を見つける」「販路を広げる」を上位に挙げている。

《業績判断D． Iの推移》

	平成 27 年				平成 28 年				見通し
	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
業 況	△40.0	△16.7	33.3	33.3	△20.0	0.0	△25.0	0.0	△16.7
売 上	△60.0	△16.7	50.0	33.3	△20.0	20.0	0.0	50.0	16.7
収 益	△40.0	0.0	50.0	33.3	0.0	△20.0	25.0	50.0	50.0
資金繰り	0.0	△16.7	0.0	33.3	20.0	△20.0	25.0	△16.7	△16.7
人 手	20.0	0.0	△16.7	0.0	0.0	△20.0	50.0	△16.7	△16.7
設 備	0.0	0.0	0.0	△16.7	0.0	△20.0	△25.0	16.7	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	13.3 %	提携先を見つける	31.6%
利幅の縮小	13.3 %	販路を広げる	21.1 %
販売納入先からの値下げ要請	13.3 %	経費を節減する	15.8 %

能登地区の漆器業



【概 況】

年末の書き入れ時期に向かい正月用品等の売上の増加があり改善を示した。従って、今期（H28.10～12月）業況 D. I は 0.0（前期△11.1）と 11.1 ポイント改善を示した。

来期（H29.1～3月）は、年末からの一服感と観光のオフシーズンによる入込み客の減少から、売上の減少を予想している。従って、業況 D. I は△14.3 と悪化を予想している。

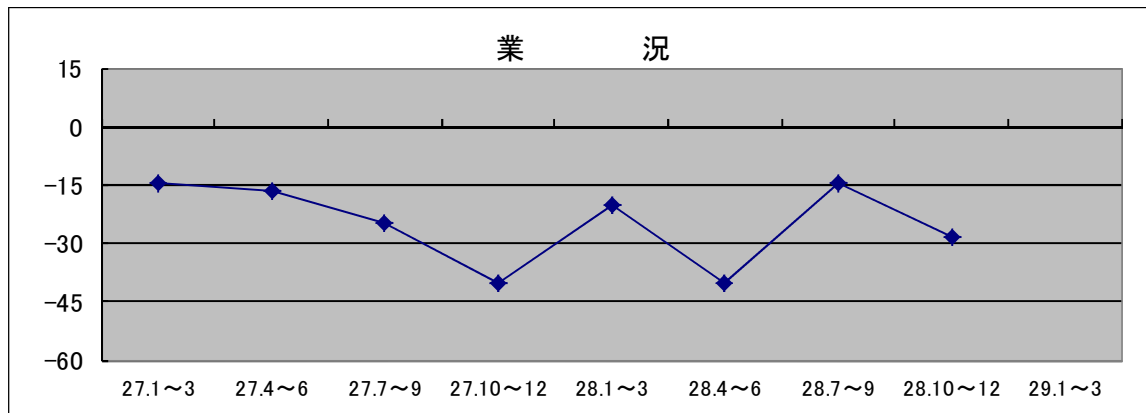
経営上の問題点として、「売上の停滞・減少」と「同業者間の競争の激化」を挙げ、当面の重点施策には「販路を広げる」「提携先を見つける」を上位に挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成 27 年				平成 28 年				見通し
	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
業 況	△17.6	20.0	13.3	11.8	△29.4	△6.7	△11.1	0.0	△14.3
売 上	△11.8	6.7	33.3	52.9	△5.9	6.7	△11.1	△7.1	△14.3
収 益	△35.3	13.3	6.7	41.2	△5.9	13.3	△11.1	△7.1	△21.4
資金繰り	△17.6	0.0	△20.0	5.9	△5.9	△13.3	△11.1	△21.4	△14.3
人 手	△17.6	0.0	△20.0	△23.5	△11.8	△33.3	0.0	△14.3	△14.3
設 備	△23.5	△13.3	△20.0	△11.8	0.0	△20.0	△16.7	△14.3	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	18.6 %	販路を広げる	23.8%
同業者間の競争の激化	16.3 %	提携先を見つける	26.2 %
輸入製品との競争の激化	9.3%	情報力を強化する	21.4 %

能登地区の木材業



【概 況】

住宅建設は底堅く推移しているが、外材におされ地元産木材の需要が減少となった。従って、今期（H28.10～12月）業況D. Iは△28.6（前期△14.3）と14.3ポイント悪化を示した。

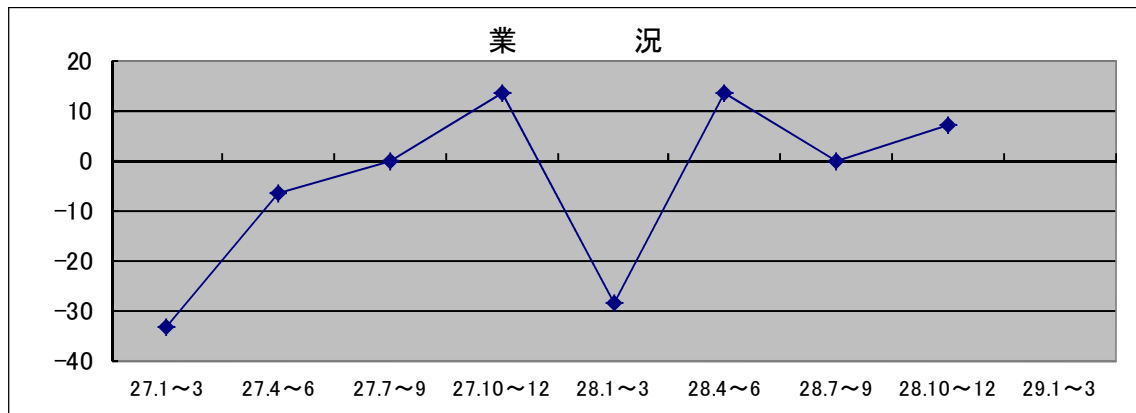
来期（H29.1～3月）についても、地元産木材の需要については現状で推移するとの予想をしている。従って業況D. Iを△28.6と横ばいを予想している。経営上の問題点として「輸入製品との競争の激化」、「売上の停滞・減少」、当面の重点施策に「情報力を強化する」を挙げている。

《業績判断D. Iの推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△14.3	△16.7	△25.0	△40.0	△20.0	△40.0	△14.3	△28.6	△28.6
売 上	0.0	△16.7	△25.0	△40.0	△20.0	△40.0	△14.3	△14.3	△28.6
収 益	△14.3	△16.7	△25.0	△20.0	△20.0	△40.0	△28.6	△14.3	△14.3
資金繰り	0.0	△16.7	△25.0	0.0	0.0	△20.0	△14.3	△28.6	△28.6
人 手	0.0	△16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	△16.7	△25.0	△20.0	△20.0	△20.0	△14.3	△14.3	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	30.0 %	情報力を強化する	18.8%
売上の停滞・減少	25.0 %	販路を広げる	18.8 %
利幅の縮小	10.0 %	新製品・技術を開発する	12.5 %

能登地区の建具業



【概 況】

年末を迎えて住宅の完成が増加したことにより、殆どの事業所で忙しかった。従って今期（H28. 10～12月）業況 D. I は 7. 1（前期 0. 0）と改善を示した。但し、建具の単価は従前通りで、売上及び収益の改善にまで繋がっていない。

来期（H29. 1～3月）の見通しは、住宅の完成の減少から悪化を見込み、D. I を△7. 1と14. 2ポイントの悪化を予想している。

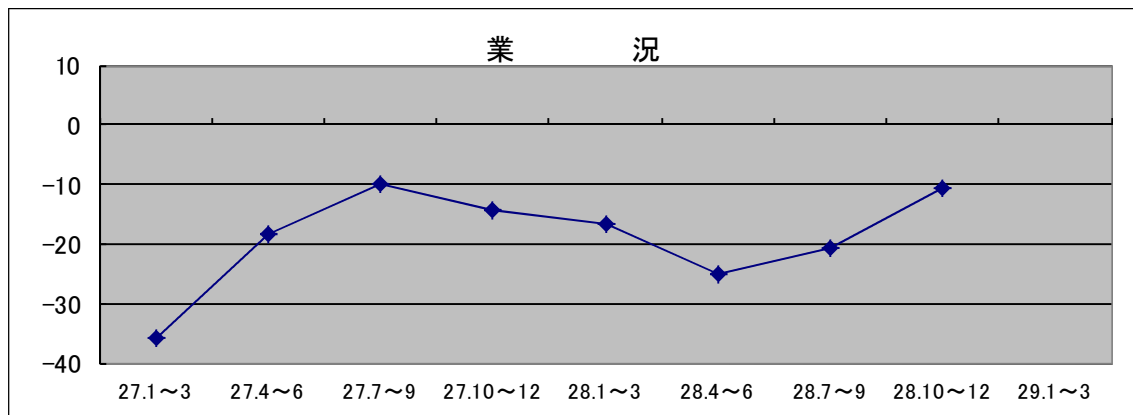
経営上の問題点として「地場産業の衰退」「売上の停滞・減少」を挙げ、当面の重点施策は、受注の減少から「販路を広げる提携先を見つける」とした先が多かった。

《業績判断 D. I の推移》

	平成 27 年				平成 28 年				見通し
	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
業 況	△33.3	△6.7	0.0	13.3	△28.6	13.3	0.0	7.1	△7.1
売 上	△53.3	△6.7	6.7	46.7	△64.3	20.0	6.7	△7.1	△7.1
収 益	△53.3	△13.3	0.0	6.7	△28.6	6.7	0.0	△7.1	14.3
資金繰り	△33.3	△20.0	0.0	△13.3	0.0	△6.7	△6.7	△14.3	△7.1
人 手	△20.0	△13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△7.1
設 備	△13.3	△13.3	△6.7	△6.7	△7.1	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地場産業の衰退	23.3%	販路を広げる提携先を見つける	33.3%
売上の停滞・減少	18.6 %	提携先を見つけ販路を広げる	25.9 %
輸入製品との競争の激化	16.3 %	新製品・技術を開発する	11.1 %

能登地区の織布業



【概 況】

受注量は安定している。工賃単価が低いことから収益確保にまでは至っていない事業所が大方であるが、一部においては好調の事業所もある。今期（H28.10～12月）業況 D. I においては△10.7（前期△20.8）と10.1ポイントの改善を示した。

今後の見通しについては、安定した受注により売上増加を見込む企業も一部にある。為替相場の変動によって先行きが不透明であり、工賃単価については現状で推移していくとみている。

来期（H29.1～3月）D. I については、△14.3で今期より悪化を予想している。

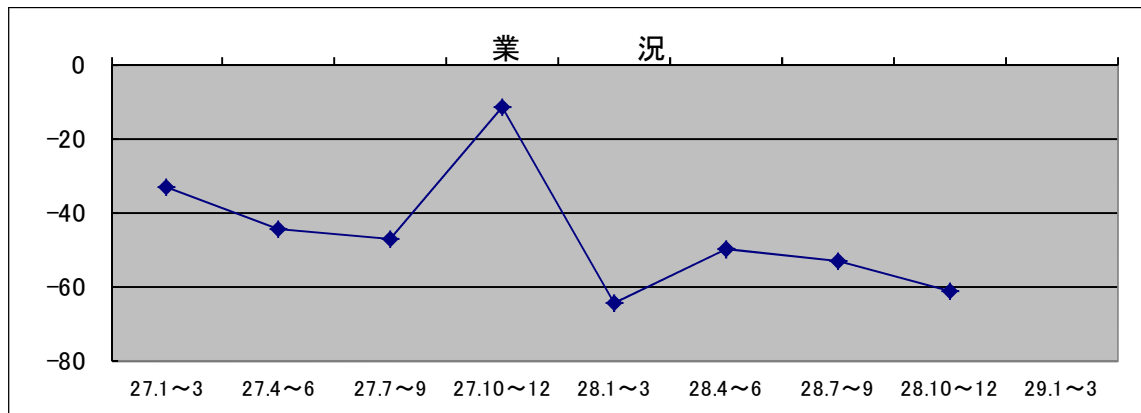
経営上の問題点は「売上の停滞・減少」等を挙げ、当面の重点施策では、「提携先を見つける」「経費を節減する」とした先が多かった。

《業績判断 D. I の推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△35.7	△18.5	△10.0	△14.3	△16.7	△25.0	△20.8	△10.7	△14.3
売 上	△28.6	△22.2	3.3	△3.6	△20.8	△12.5	△16.7	△3.6	△3.6
収 益	△35.7	△14.8	0.0	△3.6	△16.7	△20.8	△25.0	△7.1	△3.6
資金繰り	△25.0	△44.4	△26.7	△17.9	△16.7	△8.3	△8.3	△7.1	0.0
人 手	△17.9	△14.8	△16.7	△17.9	△20.8	△12.5	△16.7	△3.6	△3.6
設 備	△7.1	△14.8	△10.0	0.0	△12.5	0.0	4.2	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	13.1 %	提携先を見つける	28.8 %
輸入製品との競争の激化	13.1 %	経費を節減する	19.2 %
工場・機械の狭小・老朽化	13.1 %	販路を広げる	17.3 %

能登地区の繊維・雑品業



【概 況】

ゴム製紐製造業においては、メディカルサポーター用の製造受注が増加しているが、その他のものに関しては受注が減少し、小ロット多品種の受注が依然として多い。結果、今期業況 D. I は△61.5（前期△53.3）と8.2ポイントの悪化を示した。

来期（H29.1～3月）は季節的な要因から、販売先の在庫調整等により受注は大幅な減少を予想している。従って、業況 D. I を7.7ポイント悪化の△69.2と予想している。

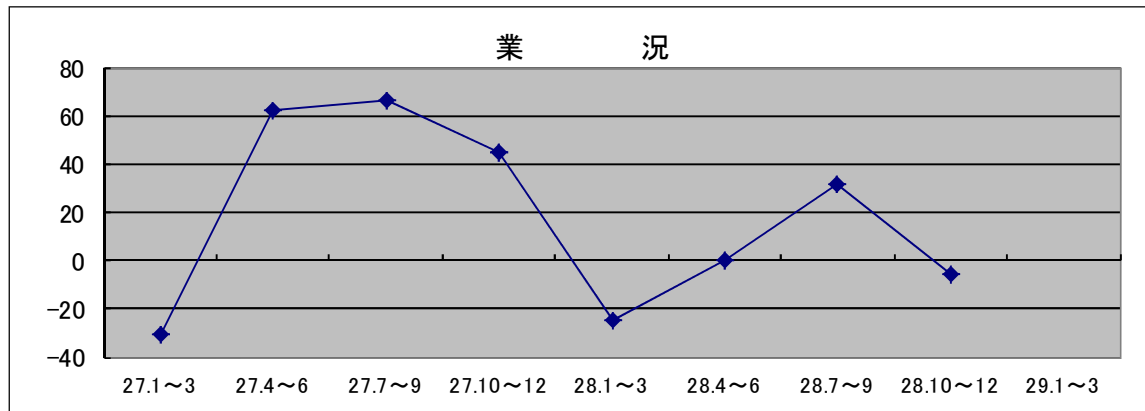
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」「輸入製品との競争の激化」、当面の重点施策として「販路を広げる」「新製品・技術を開発する」を挙げている。

《業績判断 D. I の推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△33.3	△44.4	△47.1	△11.8	△64.7	△50.0	△53.3	△61.5	△69.2
売 上	△26.7	△33.3	△5.9	11.8	△58.8	△22.2	△53.3	7.7	△61.5
収 益	△20.0	△33.3	△5.9	0.0	△41.2	△16.7	△53.3	7.7	△61.5
資金繰り	△13.3	△38.9	△29.4	△11.8	△47.1	0.0	△26.7	△15.4	△15.4
人 手	0.0	0.0	△5.9	△17.6	5.9	△5.6	0.0	△7.7	△7.7
設 備	0.0	5.6	△5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	△15.4	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	23.9 %	販路を広げる	29.4 %
輸入製品との競争の激化	19.6 %	新製品・技術を開発する	23.5 %
地価の高騰	8.7 %	提携先を見つける	14.7 %

能登地区の観光業



【概 況】

今期（H28. 10～12月）は観光のオフシーズンに入ったこともあり、業況D. Iは△5.6（前期31.2）と36.8ポイント悪化を示した。

来期（H29. 1～3月）は冬季に入り更に客足の減少が避けられない時期から悪化を見込む業者が多く、業況D. Iを△44.4とした。

経営上の問題点として「利幅の縮小」、「店舗・設備の狭小・老朽化」、当面の重点施策として「提携先を見つける」、「経費を節減する」を上位に挙げている。

《業績判断D. Iの推移》

	平成27年				平成28年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△30.4	61.9	66.7	45.0	△25.0	0.0	31.2	△5.6	△44.4
売 上	△34.8	42.9	66.7	△5.0	△35.0	17.6	68.8	△16.7	△50.0
収 益	△26.1	42.9	61.1	△5.0	△45.0	11.8	50.0	△16.7	△50.0
資金繰り	△13.0	23.8	16.7	△10.0	△5.0	0.0	6.2	△11.1	△16.7
料金価格	△4.3	23.8	16.7	5.0	0.0	5.9	0.0	△5.6	△5.6
設 備	△8.7	△19.0	△5.6	△20.0	△15.0	△17.6	△25.0	△22.2	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	21.0 %	提携先を見つける	25.0 %
店舗・設備の狭小・老朽化	11.3 %	経費を節減する	20.8 %
人手不足	11.3 %	宣伝・広告を強化する	14.6 %

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
			うち所定外
27年 1月	1.52	142.3	10.5
27年 2月	1.51	151.1	10.6
27年 3月	1.54	153.4	10.8
27年 4月	1.47	158.7	10.9
27年 5月	1.48	145.5	10.1
27年 6月	1.43	156.3	10.4
27年 7月	1.47	155.4	9.9
27年 8月	1.48	149.0	9.9
27年 9月	1.47	149.4	10.5
27年 10月	1.47	150.6	11.1
27年 11月	1.48	151.8	11.0
27年 12月	1.48	149.3	11.3
28年 1月	1.49	142.0	11.0
28年 2月	1.49	148.3	10.8
28年 3月	1.53	152.2	11.0
28年 4月	1.60	156.0	10.9
28年 5月	1.64	143.4	10.3
28年 6月	1.67	155.4	10.5
28年 7月	1.65	154.4	11.2
28年 8月	1.60	148.9	10.7
28年 9月	1.62	151.2	11.2
28年 10月	1.62	149.2	11.4

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

(平成12年を100とする)

	(平成12年を100とする)	
	総合	前年同月比
27年 1月	101.8	2.7
27年 2月	101.2	2.3
27年 3月	101.8	2.6
27年 4月	102.3	0.8
27年 5月	102.6	0.5
27年 6月	102.5	0.4
27年 7月	102.4	0.4
27年 8月	102.6	0.2
27年 9月	102.6	0.1
27年 10月	102.4	0.0
27年 11月	102.1	-0.1
27年 12月	102.0	0.0
28年 1月	101.4	-0.4
28年 2月	101.1	-0.1
28年 3月	101.7	-0.1
28年 4月	101.9	-0.4
28年 5月	102.0	-0.6
28年 6月	101.9	-0.6
28年 7月	99.6	-2.8
28年 8月	99.6	-3.0
28年 9月	99.6	-0.6
28年 10月	100.1	0.0
28年 11月	100.3	0.4

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
27年 1月	295	3,029	36,063	306,627
27年 2月	312	3,184	35,852	302,306
27年 3月	464	5,641	35,412	297,159
27年 4月	274	2,752	34,977	291,009
27年 5月	242	2,510	34,440	284,237
27年 6月	301	3,566	33,622	274,354
27年 7月	341	3,720	32,797	264,992
27年 8月	257	3,014	32,042	256,570
27年 9月	266	2,655	31,280	248,105
27年 10月	237	2,020	30,703	240,651
27年 11月	233	2,883	30,189	234,004
27年 12月	288	2,960	29,635	228,541
28年 1月	170	1,710	29,214	223,109
28年 2月	209	2,487	28,703	217,633
28年 3月	323	3,716	27,917	211,772
28年 4月	282	2,521	27,448	207,068
28年 5月	250	2,640	27,079	202,756
28年 6月	256	2,501	26,598	198,544
28年 7月	230	2,527	25,996	193,256
28年 8月	202	2,244	25,491	188,820
28年 9月	252	3,009	24,997	184,133
28年 10月	205	1,906	24,515	179,829
28年 11月	186	1,972	24,000	175,451

資料: 石川県信用保証協会「保証月報」

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
27年 1月	7	323
27年 2月	5	288
27年 3月	7	580
27年 4月	9	2,213
27年 5月	7	446
27年 6月	5	257
27年 7月	6	2,629
27年 8月	5	387
27年 9月	4	219
27年 10月	5	182
27年 11月	6	362
27年 12月	7	860
28年 1月	7	615
28年 2月	8	690
28年 3月	10	6,265
28年 4月	14	1,386
28年 5月	7	295
28年 6月	7	191
28年 7月	4	123
28年 8月	6	1,394
28年 9月	8	163
28年 10月	3	94
28年 11月	6	2,024
28年 12月	5	369

資料: (株)東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
27年 1月	84	15,592	405	41
27年 2月	160	32,244	589	63
27年 3月	81	13,968	568	61
27年 4月	103	17,366	605	66
27年 5月	245	90,534	486	52
27年 6月	120	22,622	704	69
27年 7月	118	19,423	509	56
27年 8月	105	19,462	600	58
27年 9月	115	18,536	714	72
27年 10月	140	27,084	689	64
27年 11月	149	33,454	772	72
27年 12月	119	19,782	645	60
28年 1月	142	26,145	435	40
28年 2月	97	19,478	403	47
28年 3月	99	17,956	521	54
28年 4月	127	28,392	733	72
28年 5月	92	18,391	461	50
28年 6月	139	26,797	863	82
28年 7月	116	24,556	838	77
28年 8月	117	21,307	579	57
28年 9月	106	19,914	702	63
28年 10月	108	19,294	677	63
28年 11月	113	22,517	788	69

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
27年 1月	266	5,824
27年 2月	187	5,538
27年 3月	171	8,315
27年 4月	272	23,484
27年 5月	255	7,630
27年 6月	482	12,843
27年 7月	492	13,986
27年 8月	456	11,679
27年 9月	508	13,493
27年 10月	518	10,839
27年 11月	333	11,062
27年 12月	315	7,244
28年 1月	225	6,449
28年 2月	182	3,119
28年 3月	235	12,468
28年 4月	338	34,735
28年 5月	275	15,943
28年 6月	513	19,460
28年 7月	508	12,376
28年 8月	500	13,461
28年 9月	499	10,879
28年 10月	412	11,321
28年 11月	335	5,985
28年 12月	285	6,018

資料:東日本建設業保証㈱(石川県内)

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
27年 1月	2,400	1,448
27年 2月	3,536	2,083
27年 3月	5,825	3,838
27年 4月	2,159	1,232
27年 5月	2,289	1,223
27年 6月	3,104	1,705
27年 7月	3,088	1,533
27年 8月	2,209	1,136
27年 9月	3,362	1,779
27年 10月	2,613	1,450
27年 11月	2,648	1,371
27年 12月	2,399	1,288
28年 1月	2,343	1,356
28年 2月	3,223	1,932
28年 3月	5,620	3,009
28年 4月	2,269	1,218
28年 5月	2,485	1,131
28年 6月	3,131	1,498
28年 7月	3,035	1,357
28年 8月	2,373	1,186
28年 9月	3,367	1,679
28年 10月	2,841	1,332
28年 11月	2,984	1,476
28年 12月	2,632	1,288

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
27年 1月	49,135	6,800
27年 2月	61,544	8,600
27年 3月	73,792	13,100
27年 4月	61,731	13,900
27年 5月	81,717	22,000
27年 6月	81,156	20,000
27年 7月	74,417	20,600
27年 8月	102,173	25,600
27年 9月	81,742	21,400
27年 10月	95,307	24,000
27年 11月	95,667	21,700
27年 12月	78,739	12,600
28年 1月	61,697	8,100
28年 2月	69,634	10,700
28年 3月	76,739	14,900
28年 4月	61,659	14,100
28年 5月	76,506	20,900
28年 6月	71,019	14,300
28年 7月	67,715	13,100
28年 8月	97,797	22,600
28年 9月	71,912	18,200
28年 10月	85,959	21,000
28年 11月	85,742	19,900

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

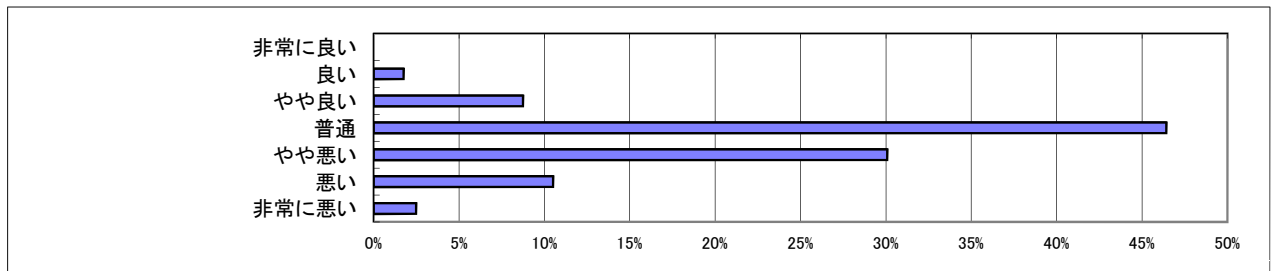
◆ 織物生産高

(千㎡)

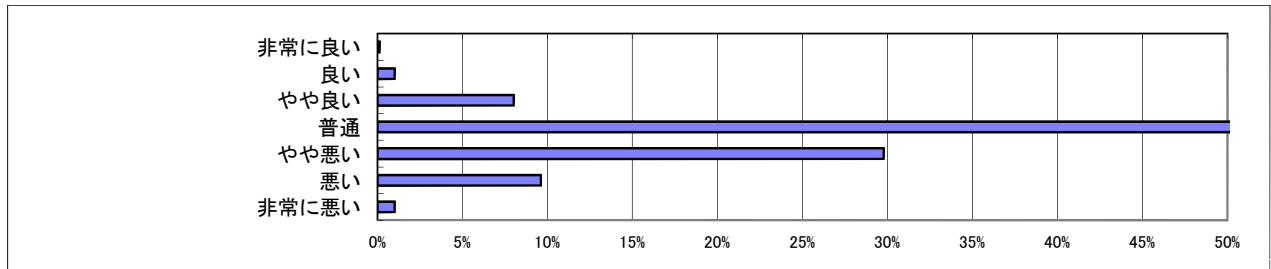
	合計
27年 1月	21,881
27年 2月	22,872
27年 3月	25,113
27年 4月	24,452
27年 5月	23,515
27年 6月	25,070
27年 7月	25,084
27年 8月	20,007
27年 9月	24,048
27年 10月	23,285
27年 11月	22,433
27年 12月	22,257
28年 1月	21,336
28年 2月	22,811
28年 3月	24,980
28年 4月	23,956
28年 5月	22,187
28年 6月	23,997
28年 7月	23,584
28年 8月	20,160
28年 9月	23,508
28年 10月	23,401

資料:石川県企画開発

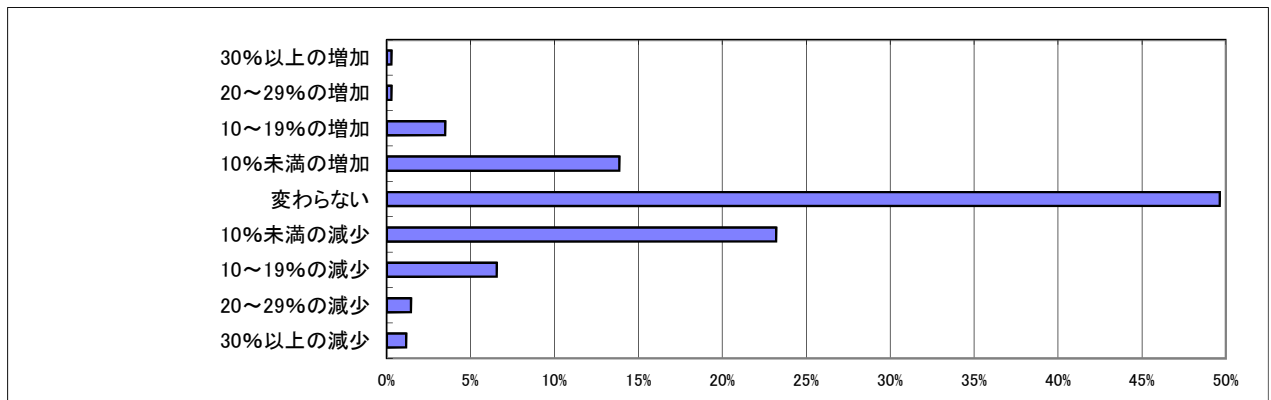
問1. 貴社では、平成29年の日本の景気をどのように見通していますか。



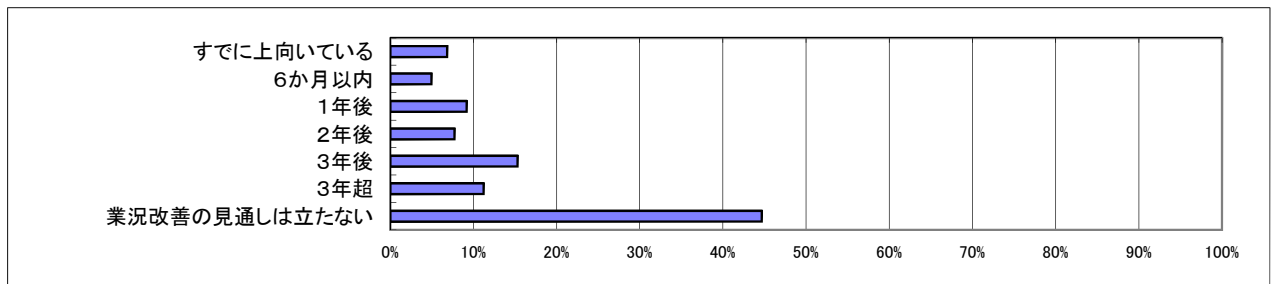
問2. 平成29年の貴社の業況(景気)をどのように見通していますか。



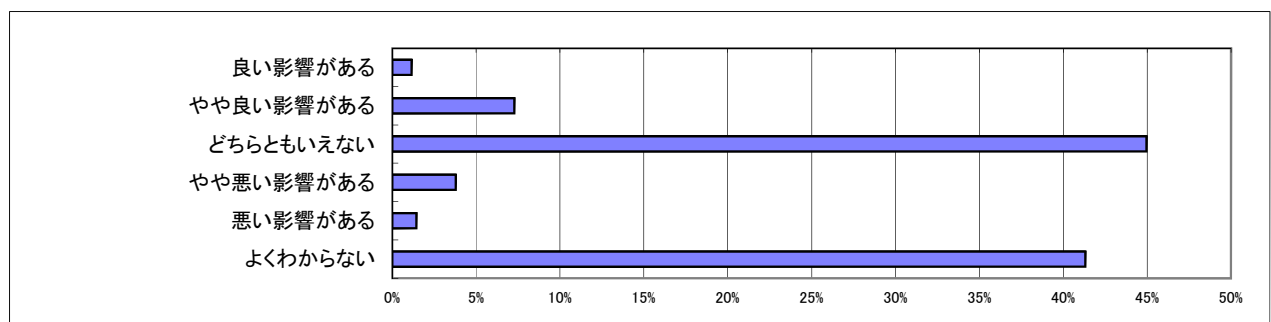
問3. 平成29年の売上額の伸び率は、平成28年に比べてどのくらいになると見通していますか。



問4. 貴社の業況が上向く転換点はいつ頃になると見通していますか。



問5. 日本銀行は、景気を押し上げる目的で、マイナス金利政策を実行しています。貴社では、経営上、どのような影響を受けていますか。



地区内の業況D. I 推移

年	期間	業況D. I	年	期間	業況D. I
H21年	1～3月	△ 40.8	H25年	1～3月	△ 30.9
	4～6月	△ 29.4		4～6月	△ 20.0
	7～9月	△ 25.0		7～9月	△ 18.6
	10～12月	△ 34.5		10～12月	△ 14.4
H22年	1～3月	△ 42.8	H26年	1～3月	△ 21.9
	4～6月	△ 36.8		4～6月	△ 25.7
	7～9月	△ 35.3		7～9月	△ 23.4
	10～12月	△ 42.1		10～12月	△ 20.3
H23年	1～3月	△ 42.0	H27年	1～3月	△ 21.6
	4～6月	△ 34.3		4～6月	△ 13.3
	7～9月	△ 33.3		7～9月	△ 11.6
	10～12月	△ 31.6		10～12月	△ 10.4
H24年	1～3月	△ 39.1	H28年	1～3月	△ 23.2
	4～6月	△ 34.2		4～6月	△ 17.9
	7～9月	△ 29.6		7～9月	△ 12.1
	10～12月	△ 28.2		10～12月	△ 16.0

